

12

其の輸入を見さりしも支那革命擾亂以來同國銑の輸入杜絶し其代用とし大正元年度は六萬七千噸を輸入したるに初まれり(大正四年に及んで本溪湖製鐵所の事業を開始せり)

條竿及形鋼類の輸入額最も多きは獨逸にして其四割四分を占め英國及白耳義之に亞く而して我國にては田中製鐵所及八幡製鐵所の二ヶ所にて製出するも未だ其額多からず

軌條の輸入品は土木鑛山輕便鐵道用の九封度十二封度十八封度のものにして主として獨國及米國産なり

筒及管の輸入品は主として米獨英より供給せらる本邦にては鑄鐵管は今や内地の總需要に應ずるに足る生産あり鋼鐵管は日本鋼管株式會社及住友伸銅所に於て製出せらる(日本鋼管會社の製産能力は年額一萬五千噸なりと云ふ)鋳力鈹の輸入は英國産最も多く米獨産亦尠しとせず

三、本邦使用鐵鋼材種類

本邦使用の鐵鋼材種類を調査せんには本邦生産の鐵鋼材に海外より輸入せる鐵鋼材を併せ參酌して略ぼ需用の種類概略大勢を卜知し得へし

今本邦に於ける一ヶ年の鋼材生産高は最近統計によれば約三十二萬噸金額二千七百萬圓内外にして此中八幡製鐵所の供給に係るものは

品目	大正三年度		大正二年度		大正元年度	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
鋼	二二〇、九二八 <small>噸</small>	—	二二六、二二二 <small>噸</small>	—	二〇七、二八〇 <small>噸</small>	—
鐵	—	—	—	—	—	—

(同所に於ける銑鐵は殆んど全部鋼鐵原料に供せらるゝを以て之を除外せり)にして本邦鐵鋼總生産高の約七割を占む今製鐵所に於ける大正二年三年度の生産品目を列記すれば

民間工場に於ける製品種目は調査至難なるを以て暫く之れを措き、輸入鋼材種類は同しく大正二年度に於て(大正元年度同二年度同三年度の明細は第二項に記載しあり)

	大正二年度	大正三年度
鋼 鋼 鋼	六〇、〇〇〇 ^施	四七、二六五 ^施
條 鋼	四〇、〇〇〇	四二、三六〇
形 鋼	二五、〇〇〇	二六、七七三
軌條及附屬品	五五、〇〇〇	七〇、〇〇三
製 釘 材	二五、〇〇〇	二九、四七〇
外 輪	二、〇〇〇	二、八五七
車 軸	二五〇	八一二
鋼 片	五〇〇	九六九
鍛 成 品	六〇〇	四五〇
坩 鋼	二〇〇	一八五
其 他	七、六五〇	九、七八四
合 計	二一六、二〇〇	二三〇、九二八
鋼 鋼	一二七、三〇〇 ^施	百 ^施 七、三〇〇
鋼 鋼	一八二、三〇〇	
ワイヤロッド	四、五〇〇	
鋳力鋇及薄鋇	二六、七〇〇	
線	二七、三〇〇	

リボン	一、四〇〇
帶及輪	三、〇〇〇
線索及撚合線	一、四〇〇
筒及管	四四、九〇〇
屑及故鐵	二、七〇〇
軌條	五九、三〇〇
電線支柱材料	二、〇〇〇
建築材料	一九、三〇〇

等を主なるものとす

上記本邦製出鋼材並に輸入鋼材種目を參酌して、本邦に於ける一ヶ年の使用鋼材の種目の大勢を知り得へし。

四、本邦に於ける鐵鋼類輸入の趨勢

前述の如く、最近本邦鋼材需用額は約百三十萬噸に達せるか、之れに對する本邦現時自給額は八幡製鐵所、釜石田中製鐵所、室蘭日本製鋼所、住友鑄鋼所、神戸製鋼所及び日本鋼管會社等を主たるものとす。其他の諸工場並に他に特種鋼製出の小工場を合して三十餘萬噸に過ぎず、自餘の百萬噸は之れを海外より輸入するの状況にあるを以て、本邦製産高は僅に需用額の四分の一を充たすに過ぎず、我國の鐵工業の萎微振はさるは主として鐵礦産額の見るべきものに依るを以て、今後一大寶庫の開發せらるゝにあらざれば本邦需用鐵材は依然として大部は海外よりの輸入に仰かざるへからず、假りに現狀にして推移せんか本邦需用額の大部は輸入額に依て支配さるゝとなり、需用の増進は直ちに輸入の増進を來すものと見るべく、今過去に於ける輸入額の増進率より將來を卜せんに本邦鐵